

OWSとアクアスロンのコースとなる船形漁港

そうしたなかで、観光資源にもなる漁港エリアで大会を開催することで全国へ情報発信しようとして、地元地域の青壮年を中心に地域活性化に取り組む「実行会」とライフセイビングチームの館山サーフクラブ、トライアスロン雑誌を発行するシーオス株式会社、の3者で実行委員会を立ち上げた。地元区長で組織する「船形地区連合区長会」も賛同。館山船形漁協の全面的協力を得て、漁港が休みとなる日に、ふだんは泳ぐことのできない港の中を

OWSとアクアスロン

船形漁港コースに初開催

7日 活性化へ全国に情報発信

館山市の船形漁港を舞台にした初のOWS(オープンウォーターレース)とアクアスロン(船形アクアスロン&OWS&PADDLE MIX)(同実行委)が、7日に開催される。波の少ない漁港内をコースに、岸壁から観戦も出るため、地域の人の応援を呼びかけている。かつて港町として栄え

た船形だが、いまでは市内でも高齡化の進んだ地域となっている。このため、地元では漁港敷地内に飲食店「ふれあい市場」を開設するなど活性化に努めている。

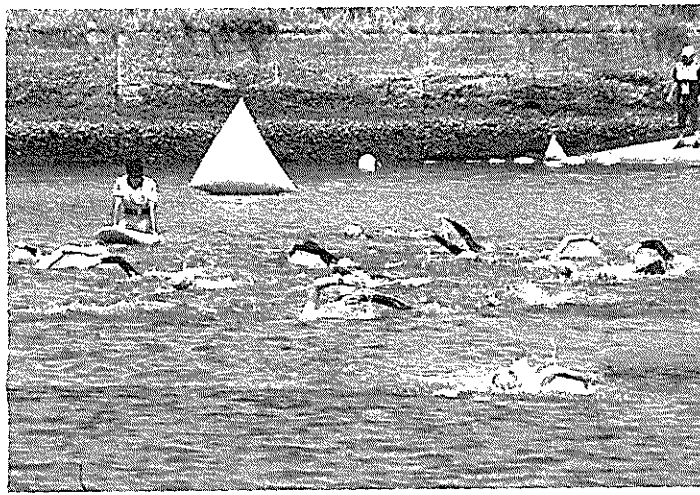
レース会場にしたイベントが初めて実現することになった。シーオスの発行する園内唯一のトライアスロン専門情報誌「トライア

スロン ルミナ」には、今回のコースとなる船形漁港も紹介され、全国から愛好者やアスリート約100人が参加を予定している。当日は、レースに先立ち、館山サーフクラブ代表を務めるタレントで館山スポーツ大使の飯沼誠司さんが講師となり、午前9時から安全講習会も開かれる。

オープンウォーターレースは、漁港内を1.5キロを泳ぎ、特設ランコース3キロを走るレースとなる。ランコースは岸壁沿いのコースで、西側の岸壁から漁港を回り、ふれあい市場周辺までがコースとなっている。問い合わせは、実行委員会の中島秀彰委員長(080-5490-7264)へ。

1.5キロのレースは11時から、午後2時から5時00分のコースを1人1人で3人でリレーするオープンスイムリレーがある。アクアスロンは午後零時半から、漁港内を2周する1キロと特設ランコースを4.5キロ走るレース。PADDLE MIXは午後1時から、1キロを泳ぎ、ボードを1キロ漕ぎ、特設ランコース3キロを走るレースとなる。ランコースは岸壁

沿いのコースで、西側の岸壁から漁港を回り、ふれあい市場周辺までがコースとなっている。問い合わせは、実行委員会の中島秀彰委員長(080-5490-7264)へ。



アクアスロンのレース＝船形漁港で

波静かな漁港で熱戦

山 館

初のアクアスロンなどに120選手

館山市の船形漁港で7日、「船形アクアスロン&OWS(オープンウォータースイム)&PA(パーフォーマンス)&DDLE MIX」(同実行委員会主催、館山市後援)が初めて開催された。地元からの参加もあったが、ほとんどが県内外からで、5レースに延べ120人が参加した。豊かな自然環境などを

波静かな漁港が開催地ということもあり、親しみやすい、誰でも手届く初心者向けのレースで、開会式の後、さっそくオープンウォータースイムレースの1時、1・5時が始まり、漁港内に置かれた4つのブイを回って参加者が競い合った。

午後からは、アクアスロンでは、漁港内を1時45分走り、PADDDLE MIXでは、1時泳ぎ、ボートを1時漕ぎ、特設

ランコースを走っていた。茨城県から2時間車を走らせて、参加した平子隆行さん(30)は、「初めてのアクアスロンの参加で、青空の下で開放感があつてアールよりずっといい。良い経験が出来た」と話せば、応援した妻の香さんは「千葉は大会があつて良いですね」と話していた。

利用した「スポーツツーリズム」で街おこしを図るため、地域の活性化の活動をする青壮年会を中心に「思行会」、タレントで館山スポーツ大使の飯沼誠司氏が会長を務めるタチヤマサーフクラブ、トライアスロン雑誌を発行するシーオス株式会社が発行委員会をつくり開催した。